

作物の種類		イタリアンライグラス	456	1次必須項目											
項目番号	項目名	調査数	方法	分 級 ・ 単 位									調 査 方 法 等		
				0	1	2	3	4	5	6	7	8		9	
1	草型	10個体、2反復	観察		直立	やや 直立 ～直 立	やや 直立	中 ～や や直 立	中	中	中 ～や やほ ふく	やや ほふ く	やや ほふ く ～ほ ふく	ほふ く	穂揃期における生育角度（株の外周を形成する茎が地表と作る角度）
2	稈長	10個体、2反復	測定	cm（小数第1位を四捨五入）									穂揃期における主要茎の地際から穂首までの長さ		
3	穂長	10個体、2反復	測定	cm（小数第2位を四捨五入）									穂首から先端までの長さ(芒は含まない)		
4	茎の太さ	10個体、2反復	測定	mm（小数第2位を四捨五入）									穂首直下節間の稈の長径を測定		
5	葉身長	10個体、2反復	測定	cm（小数第2位を四捨五入）									止葉の下第1葉の葉身の長さ		
6	葉身幅	10個体、2反復	測定	mm（小数第2位を四捨五入）									止葉の下第1葉の最大葉幅		
7	出穂期	10個体、2反復	観察	年 月 日									有効茎数の50%程度が出穂を始めた日		
8	倍数性	10個体、2反復	観察		2倍 体		4倍 体								観察または細胞学的手法により判定

作物の種類		イタリアンライグラス		456		1次選択項目									
項目番号	項目名	調査数	方法	分 級 ・ 単 位										調 査 方 法 等	
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1	初期草丈	10個体、2反復	測定	cm (小数第1位を四捨五入)										秋標準播きで、越冬前における地際より葉先までの長さを測定	
2	春期草丈	10個体、2反復	測定	cm (小数第1位を四捨五入)										1個体ごとに地際から葉先までを測定。4月上旬もしくは融雪30日後に行う	
3	穂数	10個体、2反復	観察		極少	より少	少	やや少	中	やや多	多	より多	極多	穂揃期における出穂茎数	
4	葉色	10個体、2反復	観察		極淡	より淡	淡	やや淡	中	やや濃	濃	より濃	極濃	栄養成長期の葉の緑色の程度	
5	草高	10個体、2反復	観察		極低	より低	低	やや低	中	やや高	高	より高	極高	節間伸張～穂ばらみ前期における植物体の自然高	
6	小穂数	10個体、2反復	測定	個/穂 (小数第1位を四捨五入)										1個体当たり1～2穂を計数	
7	幼植物のアントシアン着色	10個体、2反復	観察		極淡 又は 無	より淡	淡	やや淡	中	やや濃	濃	より濃	極濃	1個体ごとに茎基部の着色を観察 越冬前に行う	
8	成植物のアントシアン着色	10個体、2反復	観察		極淡 又は 無	より淡	淡	やや淡	中	やや濃	濃	より濃	極濃	穂揃期における1個体ごとに節の着色を観察	
9	1000粒重	10個体、2反復	測定	g (小数第3位を四捨五入)										計20個体(10個体2反復)の混合精選種子を100粒4反復秤量して1000粒重に換算	
10	芒の有無と長さ	10個体、2反復	測定	mm (小数第2位を四捨五入)										穂の上位にある小穂の最長芒の長さを各個体2粒測定	
11	蛍光反応性	100粒	測定	% (小数第2位を四捨五入)										常法により濾紙に25粒を貼付し、20℃16時間又は30℃8時間暗黒下で吸水させ、置床後18日目に蛍光の有無を判定する。 蛍光種子数/正常発芽数×100 (%)	
12	茎数	10個体、2反復	観察		極少	より少	少	やや少	中	やや多	多	より多	極多	穂揃期頃に1個体ごとの茎数を観察	
13	春化後の株幅	10個体、2反復	観察・測定		極狭	より狭	狭	やや狭	中	やや広	広	より広	極広	春化後の節間伸張における株の広がり。観察またはタテ+横を測定	

作物の種類		イタリアンライグラス		456	2次必須項目									
項目番号	項目名	調査数	方法	分級・単位										調査方法等
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1	冠さび病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	人工接種又は圃場における冠さび病の発生程度による評価
2	耐倒伏性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	1番草出穂期における倒伏の程度を評点
3	生育期間	10個体、2反復	観察		極短	より短	短	やや短	中	やや長	長	より長	極長	極早生・早生については初夏（7月頃）、中生・晩生については越夏後（9月初旬頃）における生存株率の状況から判定、極短（0%）～極長（100%）
4	再生性	10個体、2反復	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	1番草刈取後1～2週間目の再生状況の観察

作物の種類		イタリアンライグラス		456		2次選択項目								
項目番号	項目名	調査数	方法	分 級 ・ 単 位									調 査 方 法 等	
				0	1	2	3	4	5	6	7	8		9
1	網斑病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	発病時に被害の多少により評価
2	かさ枯病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	発病時に被害の多少により評価
3	葉腐病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	発病時に被害の多少により評価
4	いもち病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	人工接種または汚染圃場における罹病の明らかな時期に罹病程度から抵抗性の強弱を判定
5	雪腐病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	発病時に被害の多少により評価(主たる菌名を付記する)
6	麦角病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	発病時に麦角着生の多少により評価
7	斑点病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	発病時に被害の多少により評価
8	春播性	10個体、2反復	観察		極低	より低	低	やや低	中	やや高	高	より高	極高	春(4月頃)播きした場合の出穂個体率、極低(0%)~極高(100%)
9	耐寒性	10個体、2反復	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	雪が少ない状態での越冬性の良否を早春の葉枯れ程度によって評価
10	耐雪性	10個体、2反復	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	連続積雪期間50日以上での越冬性の良否を融雪後10~15日目の葉と茎の枯死割合によって評価
11	越夏性	10個体、2反復	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	初秋における栄養生長への移行程度と草勢から判定
12	雄性不稔性	10個体、2反復	観察		可稔		不完全雄性不稔		雄性不稔					雄性不稔の個体割合。葯の裂開により雄性不稔を評価し、不稔個体があった場合は不完全雄性不稔とし、不稔個体率が95%以上の場合は雄性不稔とする

作物の種類		イタリアンライグラス		456	3次必須項目								
項目 番号	項目名	調査数	方法	分 級 ・ 単 位									調 査 方 法 等
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	
1	生草収量（1番草）	2区	測定	kg/a（小数第2位を四捨五入）									1番草刈取時に測定。秤量面積は1区2㎡以上
2	乾物率（1番草）	2区	測定	%（小数第2位を四捨五入）									1番草刈取時に生草約500gを70℃48時間以上恒量になるまで通風乾燥する
3	乾物収量（1番草）	2区	算出	kg/a（小数第1位を四捨五入）									（生草収量×乾物率）により算出
4	生草収量（再生草）	2区	測定	kg/a（小数第2位を四捨五入）									再生草（2番草以後合計）を3次必須1の方法と同様にして測定
5	乾物率（再生草）	2区	測定	%（小数第2位を四捨五入）									再生草（2番草以後合計）を3次必須2の方法と同様にして測定
6	乾物収量（再生草）	2区	算出	kg/a（小数第1位を四捨五入）									再生草（2番草以後合計）を3次必須3の方法と同様にして算出

作物の種類		イタリアンライグラス		456	3次選択項目									
項目番号	項目名	調査数	方法	分 級 ・ 単 位									調 査 方 法 等	
				0	1	2	3	4	5	6	7	8		9
1	乾物消化率	2区3反復	測定	% (小数第2位を四捨五入)									酵素法または近赤外分析法による(乾物中%)	
2	粗たん白質	2区3反復	測定	% (小数第2位を四捨五入)									ケルダール法又は近赤外分析による(乾物中%)	
3	ADF	2区3反復	測定	% (小数第2位を四捨五入)									酸性デタージェント-アセトン洗浄(乾物中%)	
4	NDF	2区3反復	測定	% (小数第2位を四捨五入)									中性デタージェント-アセトン洗浄(乾物中%)	
5	ADL	2区3反復	測定	% (小数第2位を四捨五入)									酸性デタージェントリグニンとして定量(乾物中%)	
6	単少糖	2区3反復	測定	% (小数第2位を四捨五入)									アルコールで抽出, フェノール硫酸法で定量(乾物中%)	
7	硝酸態窒素濃度	2区3反復	観察・測定		極低	より低	低	やや低	中	やや高	高	より高	極高	粗飼料の品質評価ガイドブック(三訂版)に準じた方法を元に判定
8	採種性	2区2反復	測定	g/m <sup>2</sup> (小数第2位を四捨五入)									1区1m <sup>2</sup> 以上より採種し精選した種子重量	